



消防学校 ニューズ



令和3年1月号

消防職員専科教育予防査察・危険物科(第16期)

12月7日(月)～12月23日(水)の実質13日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内15消防本部から38人が参加しました。

本課程は火災予防・危険物業務において更なる専門性の向上や充実・拡大を目的に、平成28年度に「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合したものです。

到達目標は査察・危険物行政の現状と課題を理解し、的確な査察要領の取得、違反対象物に対する是正指導ができること。また、危険物業務に関する専門的な知識を習得することです。

そのために、県内外から予防業務に専従している消防職員や法律の専門家、危険物化学の大学教授など予防業務のスペシャリストを講師に招き、幅広く専門的な教育を実施しました。

(担当教官から)

この予防査察・危険物科に入校された方は、日勤で予防業務に携わっている人、当直勤務をしながら立入検査を行っている人、携わっていない人と、予防経験は様々であり、カリキュラムを組むにあたり苦慮しましたが、どの講義、どの実習にも真摯に取り組んでいただいたと思います。さらに、コロナ禍の状況や庁舎の工事により不便な環境の中、総代副総代を中心に情報交換をしていただき、まとまりのある第5期を作っていただきました。ありがとうございました。

予防業務は、建物の利用形態の多様化や、社会的に影響のある火災を踏まえた頻繁な消防法令の改正、消防用設備、防火管理、危険物施設の許認可に加え、違反処理事務、各種制度、住警器設置促進など広範囲に渡り、それぞれの業務が高度化・専門化してきていることから取っ付き難い印象を持ちやすいのではないかと思います。この第5期を修了されたみなさんが所属に帰り、予防業務の最新の情報をフィードバックしていただけたらと思います。

教務課主査 飯塚 幸代 (御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)



講義・実習風景



修了式を終えて
お疲れさまでした。



上級幹部科（第19期） High Executive Course



12月15日（火）～17日（木）の3日間、幹部教育上級幹部科を実施し、各消防本部の要を担う9人が参加しました。多くの課題に対する確に対応するため、消防力や組織力の強化・向上が求められる中、多彩な顔ぶれの講師陣による講義や意見交換などを通じて、組織全体を円滑に管理運営するために必要な知識や考え方などを会得しました。



【担当教官から】

できる限り多くの気付きや新たなヒントを持ち帰っていただきたいと考え、民間企業の社長や私立学校の校長先生など、消防以外の組織のリーダーを講師に招いたカリキュラムといたしました。今回の教育訓練で得た気付きやヒントを今後の組織運営に活かしていただけましたら幸いです。

教務課主任 土屋 裕一（県職員）

処置拡大追加講習（第6回）

12月1日（火）～12月4日（金）の4日間、処置拡大追加講習を開催し、県内12消防本部から63人の救急救命士が参加しました。

県MC医師や指導救命士等の指導の下、「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」や「心肺機能停止前の静脈路確保と輸液」の講習を受講しました。本講習終了後、県MCで認定されると拡大された2行為（処置）を行なうことができます。

（担当教官から）

本年度は学生63人と、例年の約半数での講習となりました。新型コロナウイルス感染症が全国的に猛威を振るう中での実施でしたが、本講習を修了し認定された救急救命士は、高緊急度ショック傷病者に対する輸液等救命率向上に直結する処置が行えるようになります。静岡県の病院前救急医療の質の維持向上には重要な講習ですので、感染対策を行い実施しました。

実習ではマスク、手袋、フェイスシールドを着用し、定期的な手指消毒と換気の徹底等を行いました。座学中も換気を実施したため、かなり寒い環境下での講習となってしまいました。不便をかけた部分もありましたが、修了した救急救命士が現場で活躍することを期待しています。

教務課主査 田島 貴俊（富士市消防本部から派遣）



消防団員専科教育 警防科 (第15期)



12月5日(土)～6日(日)の2日間、消防団専科教育警防科を開催し、県内市町から団員経験が概ね3年以上の32人が入校しました。安全管理や防災に関する講義のほか、ホーストレーニング、注水要領や火災防ぎょ総合訓練の実科訓練を行いました。

また、ドールハウスを使用し火災性状、状況評価、屋外攻撃要領などを確認することもできました。



千葉県館山市消防団

「防災」講話では、団長の吉野隆志様から、昨年の台風15号での活動報告復旧・復興作業等を、部長の川名まひろ様から女性消防部の活動報告等のお話をいただきました。

館山市消防団は、災害復旧の功績が認められ、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しております。とても参考になる内容で、聴講した学生は、「気づき」を得ました。



今年度は、火災防ぎょに特化したカリキュラム構成としました。入校された学生は、座学・実科訓練ともに熱心に取り組んでおり、普段の消防団で行われる訓練では得られない知識・技術を身につけることができましたと思います。各消防団に還元し、地域住民の生命、身体及び財産の保護に活かしていただきたいです。

教務課主査 早川 淳(磐田市消防本部から派遣)

塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)

コーナー 今月のつぶやき

わが消防学校は、新幹線から見える

知らない人は知らないが、知っている人は知っている(当たり前?)、わが静岡県消防学校は、静岡市清水区の興津地区にある。すぐ南には、日本の交通の大動脈である新幹線が通っている。鉄道好きの私には、とても良い職場環境とも言える。

昼間なら新幹線の車窓から、ほんの短時間だが、消防学校が見える。

東から来た場合は、新富士駅を過ぎ、富士川を渡り、トンネルとトンネルの間、進行方向の右側。

西からは、静岡駅を出て、5分ほど走り、最初のトンネルを出るとすぐ、左側に見える。

最近、塗装し直して綺麗になった白色の建物の上部に青色で静岡県の県章とともに「消防学校」とペイントされているのが目印である。(表紙右上の写真)

春から夏、秋にかけては、午後、屋外訓練場(グラウンド)や訓練塔で、入校生が、厳しい訓練を行っている。ひょっとしたら、新幹線の車窓から見えるかもしれない。

建物の1階で、パイプ椅子に座って、訓練を見ている人影の一つは、私かもしれない。

私のことはさて置き、訓練中の学生を見て、「おーっ、やってるな、がんばってるな」と思っていただければ、とても幸せなことである。

おまけ 元日

私は、休日は外出より家の中で過ごす、お籠もりが大好きである。今年の年末年始はコロナへの予防対策の意味もあり、例年にも増して家でじっとしている時間が長かった。それが決して苦痛ではなかった。年明けのある日の夜、ラジオを聴いていたところ 夏目漱石の「元日」という作品が朗読されていた。布団に入り、半分寝ぼけて聴いていて、そのまま寝入ってしまったので最後まで聴いていない。

翌朝、気になったので、どんな作品か調べて、改めて読んでみた。

111年前、1910年の1月1日の朝日新聞に掲載された文章であることが分かった。

夏目漱石の日常の当たり前のことへの疑問やボヤキ(いわゆる愚痴)やネタバレ等が重苦しくない文章で書かれていた。「普通の人」が、当然のこととして何気なくスルーしてしまうことに気を留め、しかし、「普通の人」と同じような人間臭い感情を持っている。しかし、朝日新聞もよくこの文章を元日の新聞に掲載したなあ、とも思った。昔は今よりずっとおおらかだったのかもしれない。

そんなことに思いを馳せていると、ノスタルジーや温もり、感傷に加え、文豪への親近感などが混じった不思議な感覚を覚えた。

次号は専科教育救急科を中心に
お届けします。お楽しみに!

編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

